

# 2025年度 ニチキッズ盛岡もとみや保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2025年1月5日（月）～1月31日（土）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2025年2月20日（金）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	保育理念に基づき、食育活動「2025 絵本の世界のおやつたち」と題して、年間を通して絵本に出てくるおやつを子どもたちと一緒に五感を刺激し、保育者のみならず給食職員とも連携し、作る楽しさ食べる楽しさを存分に味わえるようにした。 年度後半は、遊びのコーナーを複数に分けた環境作りを設定し、子どもの主体性に留意し、一人一人が遊びに集中できるようにした。
子どもの発達援助	0歳児は、家庭での様子を聞き取り、生活リズムを整えながら一人一人の発達、興味に合わせ園に慣れるよう関わり、穏やかな声掛けを心掛けた。 1、2歳児は、月齢の差はあるが、職員間で連携し個別の関わりも含め、発達に合わせた活動を取り入れた。また、職員自ら楽しむ姿を見せ、子どものやってみたいを引き出し、できることを増やせるようにした。
保護者に対する支援	園での子どもたちの様子をドキュメンテーションにして掲示し、保護者との言葉だけではなく視覚的に園の様子を伝えられるようにした。 子育て、仕事等に関する相談を個別面談以外でも話せるよう、話しやすい環境づくりを心掛けた。
保育を支える組織的基盤	「働きやすい職場」にするために物事を自分本位で考えるのではなく、相手の立場も考えたうえで自分の意見を伝えていくことに留意していった。 虐待不適切保育についても毎月の理解度チェックや内部研修、外部研修に参加し、「子どもの最善の利益」を全職員で意識統一を図った。

総評
<ul style="list-style-type: none"><li>食育活動を絵本の中に出てくるおやつを子どもたちと一緒に年間を通して楽しむことで、絵本に興味を持ったり、食べてみようとしたりと子どもたちの成長が感じることができた。</li><li>保育理念に基づき、行事だけではなく普段の保育の遊びの中で、子どもたちを見守りながらも職員自らが楽しむ姿を見せ一緒に楽しめていた。今後も子どもが主体的に遊びを展開できるよう日々保育について検討をしていきたい。そのためにも園内外の研修やミーティングなどで共通認識を持つことが必要となる。</li><li>保育について、職員の困りごとは子ども自身の困りごとと考え、なぜそうなるのか、どう伝えるとよいか意識を変えていき、「子どもの最善の利益」とは何かをしっかりと理解していきたい。</li></ul>